

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所としての理念や目標を年度末の会議で振り返りを行い見直しを行っている。 今年度は「めくばり・きくばり・心くばり」を目標に行ってきた。 | ホーム独自の理念「めくばり・きくばり・心くばり」を職員の話し合いで今年度作り上げた。職員はこの理念を日々の支援の中で自然に行われなければならない、常にするべきこととして捉えている。職員に理念にふさわしくない行動等が見られたときは、ユニット会議等で全体の問題点として上げ話し合い、改善に取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の行事(敬老会・お祭り等)への参加を積極的に行っている。 小学校・中学校との交流も行えている。 | 運営推進会議を通して区長より自治会行事のお誘いをいただき、区主催の「ふれあい会」にも春夏秋冬の年4回出かけ、交通安全の腹話術や演歌歌手の公演等の多彩なイベントに参加している。地域のお祭りでは夕方4時頃訪れる子供神輿と夜7時頃の獅子舞の来訪があり利用者の楽しみの一つになっている。小学校5年生との交流は年3~4回にもなり、この夏には、百人一首・紙芝居・組体操・なぞかけ等、子どもたちが考えてきた内容で行われ親睦を深めたという。中学生の職場体験も2名の生徒が来訪し、七夕飾り見物やレクリエーション、生徒が考え作ってきたペットボトルボーリングなどでふれ合った。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 小学校との交流会を行い、認知症のお年寄りと関わって頂いている。 又、職場体験やボランティアの受け入れも行っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1度運営推進会議を行い、地域の方・行政の担当者・家族等の参加がある。 活動状況等の報告を行い、意見交換を行っている。 | 会議には家族代表、区長、社会福祉協議会会長、民生児童委員会会長、民生児童委員、市介護保険課職員、地域包括支援センター職員等、各方面から出席をいただき、定期的に開催している。現状報告や地域での行事、行政の取組みなどについて活発な意見交換が行われている。季節柄節分の話では回収も考えた豆まきの話聞かせていただいたり、防災訓練の話が出たりと多彩な内容で、出された意見は運営に活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議に市担当者の参加があり、事業所の状況を報告し、意見を頂いている。 月に1回あんしん相談員の訪問もあり、意見を伺い、サービスの向上に繋げている。 | 市役所に出向く機会等を活かし、市関係機関とは日頃からコミュニケーションを取るようになっている。介護認定の更新手続きは全員の利用者がホームにて行っている。市や地区から依頼の施設見学の受け入れ時には認知症や施設の特徴等の話を計画作成担当者からしている。あんしん(介護)相談員の受け入れは毎月あり、口頭で報告を受け、所長が記録を取り運営に活かしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 転倒の危険のある方には帽子をかぶって頂いたり肘あてをして頂いて見守りを重視し、行動に寄り添うよう努めている。 | 車の往来や市街地という環境、リスクなどを配慮し、玄関の施錠をしている。利用者に落ち着かない素振りや外を気にする言動があった場合には利用者の体調を気づかいながら、車椅子を持参しての散歩、近くの店に買い物に出かけたりと気分転換を図っている。転倒の危険性がある利用者には編み物が得意な利用者や職員が編んだ彩りの良いカチューシャや肘・膝当てを身に付けていただきリスクの軽減を図っている。身体拘束・虐待防止については年2回法人で研修会を行い、参加できなかった職員向けに全体会議で発表し共有を図っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 声かけや言葉使い等職員間で注意できるような環境作りに努めている。 又、会議でも話すようにしている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 制度について全職員が理解は出来ていない為、必要な時に支援できる体制を作る必要がある。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 | 契約時には時間をとって丁寧に説明している。 不安・疑問を聞きながら理解して頂き、同意を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 日常的に意見の出やすい雰囲気作りに努め、面会時等に家族とコミュニケーションを図り、思いを汲み取るよう努めている。 | 全利用者が自身の意見・要望を表明できるが、職員は一人ひとりと向き合い、制限するのではなく何をしたいかを見極め、利用者の要望に沿って支援している。家族との信頼関係を大切に考え、毎月の利用料や買い物等の立替金を持参していただき、直接、意見や要望を伺う機会に繋げている。また、利用者の現状を話し、共通認識に努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 2ヶ月に1回全体会議・ユニット会議を行い、意見を聞いて反映させている。 | 全体会議は19:00からで、その後ユニット会議を行っている。職員との関わりの中から事前に議題を設定し、会議での活発な意見交換に繋げている。人事考課と目標管理制度がパート職員にも適用されており、所長との面接を年2回行うことで仕事に対する取り組み姿勢を明確にし、職員のレベルアップとモチベーションアップに繋げている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員が気分転換できる休憩室・屋上を確保したり、職員の悩み・人間関係を把握したりするよう努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内で研修を行っている他、外部で行われる研修にも多くの職員が参加できるよう勤務の調整等を行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡会の研修に参加しサービスの質の向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用前に面接を行い、必ず本人に会い、心身の状態や本人の思いに向き合い聞き取った内容を職員に伝えている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | これまでの家族の状況や求めている事を聞き、事業所としてどのような対応ができるか話し合いをしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人と家族が必要な事に対して出来ることはその場で対応し、状況をみながら支援している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 一緒に調理をしたり食事をとったりし、共に過ごすことにより、支えあえる関係作りに留意している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 敬老会・受診時・外出等で家族と交流の機会を作ったり、面会時に日々の様子を伝え、出来ることはして頂いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 知人や家族の面会が多くあり、ゆっくりと過ごして頂き関係が継続されている。 又、家族の協力で美容院や自宅に行かれていた方もいる。 | 遠方からの友人の訪問を受ける利用者もいる。ホームではいつでも迎え入れており、居室や共有スペースの畳の間などでお茶を出し、くつろいでいただいている。 なじみの美容院へ家族と出かける利用者もいる。訪問の美容師とも顔なじみとなり、カットは毎月、髪染めは2ヶ月に1度のペースで利用できている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の人間関係を把握し、協力し合ったり、尊敬しあえる場面を作り、お互い支え合えるような支援に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他の所へ移られた場合、これまでの生活について情報提供をしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の関わりの中で利用者の言葉を良く聴き、把握に努めている。 | 一日の流れは一応作られているが、利用者本位の対応を心掛けており、無理強いをすることなく一日の流れに沿って支援に努めている。家族から生活歴を聞いているが、利用後に好転する事例も多く、職員は全体会議やユニット会議で共有し日々の支援に活かしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 利用者の面接をもとに日々の会話の中からの様な生活をしてきたのか把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりの生活リズムを理解し、一緒に行ったりすることで本人の状態を把握している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人・家族には日頃の関わりの中で思い・意見を聞き、反映させるようにしている。カンファレンスを行い、職員の意見を聞いている。 | カンファレンスを月の第1週目を実施しており、事前に利用者や家族から意見、要望などの聞き取りをし、担当職員(1人で2~3人の利用者を担当)と計画作成担当者で話し合い、その内容を基にケアプランの作成を行っている。6ヶ月に一度の見直しを基本としており、心身の状態に変化が見られた時は随時の見直しを掛けている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 状態変化・職員の気づき等は個々のケア記録に記載し、職員間の情報共有を徹底している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人・家族の状態に応じて通院や外出の送迎等必要な支援は柔軟に対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 運営推進会議に区長・民生委員・地域包括支援センターの方々に参加して頂き、情報交換・協力関係を築いている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人の今までのかかりつけ医や希望の病院へ受診している。基本的には家族同行の受診となっているが、不可能な時には職員が代行している。 | 契約時に受診対応は家族にお願いするように話を伝えているが、家族の負担が大きく最近では職員対応になってきている。歯科に関しても同じように支援している。緊急時の窓口はユニット毎に所長と計画作成担当者で行われ、明確な体制が作られている。常駐の看護職員が受診支援、薬の管理、深夜のオンコール対応等の判断を行っている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護職員を配置しており、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。いない時には記録・送りをともに連携を行っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は医療機関に情報提供を行い、入院中は医療機関や家族と密に連絡を取り、対応している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 本人・家族の意向をふまえ、出来るだけ家族の希望にそえる様、話し合いを行っている。 | 重要事項説明書の追加事項として「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」を入居手続きの折に説明し了承をいただいている。重度化に直面した場合には、利用者、家族等の希望を伺い、医師、看護師、職員との連携による支援体制が組まれている。看取りや緊急時対応についての法人研修があり、職員は出席しスキルアップに繋げている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変が予測される場合の対応や事故発生時についての話し合いはしているが、定期的に訓練は行っていない。今後研修に組み込んでいく予定。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回利用者と共に防災訓練を行っている。地域の協力体制については運営推進会議で協力を呼びかけている。 | 年2回、訓練を複合施設全体で行い、避難訓練時には利用者と職員がタオルを首に巻いて避難するよう取り決められている。毎回、訓練時には出火場所の設定を変えたり、装備品としてエアストレッチャーを使い階段避難を試みたりして工夫をし、経験値として万が一に備えている。事務室に「事件・事故発生時緊急連絡網」と「救急車の呼び方」を掲示し備えるとともに、職員の招集訓練も行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者の気持ちに配慮し、さりげないケアを心がけている。 入職時のオリエンテーションで守秘義務について話をしている。 | 居室入室時にはノックや声掛けを必ず行っている。お名前は基本的に苗字に「さん」づけでお呼びし、家族や本人との話し合いで愛称等でお呼びすることもあ る。職員は言葉遣いに気を配り、利用者の気持ちに寄り添い、独自の理念を念頭に支援している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者と過ごす時間を通して利用者の希望等を見極め、それをもとに日常生活の中で一人ひとりの状態に合わせ声をかけ、自分で決めてもらうようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本的な1日の流れはあるが時間を区切った過ごし方はせず、一人ひとりの体調に配慮しながらペースを大切に、それに合わせた対応を心がけている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 着替えの服等は一緒に選んで頂き、朝の身支度等は鏡の前に立ち自分で整えてもらうようにしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 調理・盛り付け・配膳・下膳・洗い物等を利用者と共に行い、昼食は利用者と職員が同じテーブルで楽しく食事が出来るよう工夫している。 | 自力で食事ができる利用者がほとんどで、食事形態も刻みの大きさを少し調整する程度で食べることができている。献立は1週間分を職員全員で話し合い、おやつは昼食後に利用者と相談し食べたいものを考え作っている。いただき物の食品もあるが、職員が自宅でとれた野菜を持ち寄り料理することが多い。屋上にある畑の水やりは家族の息子さん朝・夕に来てくれ、ねぎ・春菊・ほうれん草などが採れ、利用者も散歩がてら収穫し楽しまれている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 1日の食事・水分量を把握し、本人の食べやすい形態で提供するようにしている。 月1回体重測定を行い、変化に気をつけている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後洗面所で行っている。 声かけをし、本人に行ってもらい、出来ないところは支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を使用し、声かけ・誘導を行い、トイレで排泄が出来るよう支援している。 | 排泄表をつけ、職員は排泄パターンを把握し、トイレ誘導に繋げている。また、特に車椅子利用の方については立位を大切に、職員は声掛けで失禁調整等を図り、きくばり・めくばり・心くばりを心掛け、気持ち良い暮らしに繋げている。自立の利用者の排泄に関しては本人に聞いているが、トイレの後の臭いやバット等の汚れ具合で確認することもある。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄チェック表を使用し、排便パターンを確認している。 毎日ラジオ体操を行い、水分補給も心がけている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 基本的に週2回の入浴。 出来る限り本人の希望に沿うようにしている。 | 日曜日以外は毎日、10:00～11:30、14:00～15:30を入浴時間に当てている。浴室は淡い色のタイルで温かみを感じられ、浴槽も3方向から介助ができる造りになっている。季節を取り入れたゆず湯や菖蒲(職員の自宅に自生)湯で楽しんでいただくこともある。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。その方のペースに合わせて、午睡したり休息がとれる様支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方箋を個人のファイルに整理している。 服薬時はきちんと服用できているかの確認をしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 生活歴や日々の関わりの中から得意なことを見つけ、それを活かせるような支援をしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 暖かい時期は月に1回外出・外食を行っている。近くのスーパーに出かけたり、3階の屋上で過ごすことにより気分転換を図っている。 | 年間計画を作り年度初めに担当職員を決め、その後、行事計画の内容を担当職員が考え行っている。バラ・菊・お雛様の鑑賞、近隣のスーパーマーケットへの買い物などに出掛けている。3階の屋上は畑を見る楽しみと共に収穫ができ、利用者の気分転換に最適な場所となっている。車椅子での外出については車椅子が積める併設サービスの車を借りて出掛けている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金については家族が管理し、外出時は施設の職員が払っている。 お金を使えるような支援を考える必要がある。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | かかってきた電話の取次ぎの対応はしているが自らが行うやり取りは行えていない。体制を整える必要がある。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者と一緒に作品を作り、季節にあったものを飾っている。 居心地良く過ごせるよう、席の配置も配慮している。 | エレベーターを上がると建物の2階がホームのスペースとなり、キッチンが対面式の開放的な共用スペースとながり、職員のめくぼりも広範囲にできる。両ユニットの仕切り壁は可動式で合同行事を行う場合に開放され、使い勝手の良い設計となっている。リビングの壁面には利用者が作った見事な刺し子や折紙が飾られており、温かな雰囲気を感じられた。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | たたみ・ソファ等を置き、居場所を選択できる様にし、本人に合った場所で過ごして頂いている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入所前に家で使用していたものを持ってきて頂き、慣れ親しんだものを使用して頂いている。 | それぞれの居室には馴染みの家具やテーブル、椅子等が置かれ、亡くなられた連れ合いの写真や花を飾っている利用者もあり、快適に過ごしていることが伝わってきた。各居室はエアコン完備で、二部屋ほど和室タイプがあり、タイミングが合えば希望により利用することが出来る。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 一人ひとりの「できること」「わかること」を見極め必要な目印をつけたり物の配置に配慮している。 | | |